

一般社団法人コミュニティシネマセンター 2023年度(令和5年度)事業計画

1. 受託事業

[1] 映像アートマネージャー育成のためのワークショップシリーズ2023

(文化庁 令和5年度「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」)

継続的に実施している人材育成事業。全国コミュニティシネマ会議、上映者育成のための講座・ワークショップ、ミニシアター・コミュニティシネマ連携企画、Fシネマ・プロジェクトという4つのプログラムを柱とする。シンポジウムやワークショップ、講座等の事業を通して、地域の上映活動を担う人材を育成し、ネットワークの構築を進める。

(1) 全国コミュニティシネマ会議2023

2023年9月22～23日 会場:高崎芸術劇場(群馬県高崎市)ほか

R5年度の全国コミュニティシネマ会議は、群馬県高崎市で開催する。

2020年から続くコロナウィルスの影響を上映者がどのように乗り越え、どこに向かっているのか。海外の事例も交えながら、コロナ後の新しい映画館・上映者のあり方、また、コミュニティシネマと自治体の文化行政の連携について、上映支援策、映画振興策といったテーマを含めて話し合う。

海外からはヨーロッパまたは韓国からゲストを迎える(予定)

プレゼンテーション・基調報告・ディスカッション、具体的に上映のあり方を学ぶことができる、分科会(ワークショップ)、関連上映会も併せて実施する。(3分科会を予定)

分科会テーマ例 ※一部は上映者育成のための講座・ワークショップとして実施

- ・映画祭の現在
- ・子どもと映画プログラムの実践(模擬上映会)
- ・Fシネマで集まろう!(映写技師のネットワーク)
- ・映画館のサブスクリプションとは何か～映画振興策について考える

(2) 上映者育成のための講座・ワークショップ

- 上映振興制度のあり方を考える講座

映画館や上映者にとって望ましい「上映支援」のあり方を考える。

2回程度実施(予定) 東京(オンライン)、高崎など。

- アートマネジメント・ワークショップ

東日本大震災後、2012年から10年間にわたって実施してきた「アートマネジメント・ワークショップ イン 東北」、今年度は、地域を限定することなく、必要とされる場で上映者養成のためのミニ・ワークショップを実施する。

(3) ミニシアター・コミュニティシネマ連携企画の推進

① 「子ども(若年層)と映画」プログラム

「子どもと映画プログラム」では、若年層(小中高校生～大学生を含む)を対象とする上映会を定期的に行う映画館・コミュニティシネマの増加を促すため、以下の事業を行う。

- 「子どもと映画プログラム」ネットワークの構築

子ども向け上映会をより魅力的なものにするための方法(子ども向けの解説、映写室見学、簡単なワークショップ等々)を考え、情報やノウハウを共有し、新しいプログラムをつくるためのミーティングを定期的に行い、ワークシートの作成などを共同で行う。

- 上映作品資料(鑑賞ノート/ワークシート)の作成

夏休み子ども映画館(上映会)のための作品のテキスト(鑑賞ノート)を作成する(2作品程度)。

- **夏休み子ども映画館（上映会）の実施**

全国各地のコミュニティシネマが連携して夏休みに上映会を開催する。（夏休みに8会場、夏以降2～3会場で実施予定）

小学生以下対象2日間、中学生～大学生対象2日間。

② **若手監督作品上映推進プロジェクト**

若い監督や製作者によるインディペンデント映画の上映を盛り上げるため、監督や出演者等によるトークや舞台挨拶等のプログラムを企画、実施。出演者旅費を負担する。また、複数のミニシアターが連携して実施する市民・観客が参加できる地域交流・上映企画など、新しい映画館の魅力を発信する事業を開拓・実施する。全国各地の映画館・上映団体10館程度で実施。

(4) Fシネマ・プロジェクト

デジタル化が進行する中でも、映画のオリジナルの形態であるフィルムでの上映環境を保持しつづけるためのプロジェクト。R5年度は、ウェブサイト「Fシネマップ」を活用した情報提供・ネットワークづくり、フィルム映写技師の育成のためのワークショップ、Fシネマの魅力を広く伝える上映会を実施。

- **Fシネマのウェブサイト「Fシネマップ」の運営**

フィルム上映に関する情報を提供するFシネマのポータルサイト「Fシネマップ」fcinemap.comの運営。

- **フィルム映写ワークショップ**

2023年10月27～29日

フィルムに触れる機会が減り続けている上映者・映写技師の育成のためのワークショップ。ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念イベントの一環として、日韓映写技師会議準備会議、福岡市総合図書館と共同で、フィルム映写初級者のための初級クラスと中級クラス（移動映写）を開講する。（韓国からの参加も）また、合わせて「国際シンポジウム 日韓映写技師ミーティング～映写技師という仕事」（仮）を開催する。

- **フィルム上映会の実践**

映写技師の育成と、フィルム文化の魅力と重要性を伝えるため、全国コミュニティシネマ会議に合わせてフィルム上映会を開催する。

コミュニティシネマセンター会員館と共同でフィルムでの上映会を実施する。

[2] 「映画上映活動年鑑2023」の作成（令和5年度「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」）

映画の上映は、映画産業・コンテンツ産業の一部として捉えると同時に、文化事業、教育事業、公共的な事業として捉えることが重要である。この年鑑では、幅広い視点から上映活動をとらえ、「映画館での上映（興行）」（及び配給）に関する既存のデータを活用しながら、これに映画祭やシネマテークでの上映など公共的な上映活動に関するデータを加え、我が国における映画上映の現状を提示し、分析する。映画館や公開作品については独自に詳細なデータを収集、巻末には、47都道府県別に全映画館と公共の上映活動に関するリストを掲載する。この10数年間、東日本大震災、長期に及ぶ新型コロナウイルス禍、上映におけるデジタルシフトといった上映活動の根幹を揺るがすような事態が出来している。上映に関するデータを多面的に収集・分析することにより、我が国における映画上映のリアルな状況を提示し、特に文化事業としての側面から、その課題を提示し、上映振興策立案のための基礎資料とされることを目指す。

「映画上映活動年鑑2023」 内容（案） A4版/約200ページを予定

I **映画館での上映**

(1) **概況**

スクリーン数の推移（1993～2023） 観客数の推移（2014～2023）

種類別にみる映画館数・スクリーン数の変化（2005～2023）

地方別にみる種別映画館数・スクリーン数の変化(2014/2023)

全国映画館地図(種別)(2005/2023)

(2) 公開本数・公開作品

公開本数の推移(2014~2023) 興行収入の推移(2014~2023)

1作品あたりの観客数(2014~2023)

公開作品の上映館数[公開規模]

2023年に映画館で公開された映画の分類 ※公開作品及び特集上映リスト(基礎資料)(約1200件)

2023年興行収入10億円以上作品[日本映画] [外国映画]

興行収入10億円以上の映画/興行収入10億円未満の映画

(3) 諸外国との比較 北米・イギリス・フランス・韓国等とのデータの比較

[観客数] [年間鑑賞本数] [スクリーン数/館数] [1スクリーン当たりの人口] [1スクリーン当たりの観客数]

[入場料金・興行収入] [シネマ・コンプレックスの割合 スクリーン数/映画館数] [公開本数]

(4) 都道府県別概況

都道府県別概況(人口/映画館数/スクリーン数/年間観客数/1スクリーン当たり人口)

1スクリーン当り観客数/一人当たり年間鑑賞回数)

都道府県別スクリーン数の推移(2014~2023)

都道府県別にみる種別映画館数・スクリーン数の変化

(5) 全国映画館リスト 約600館(3600スクリーン)

II 公共上映

(1) 映画祭 全国映画祭リスト(約200件)

(2) 公共の映画専門施設 公共の映画専門施設(アーカイブ、シネマテーク)リスト(20件)

(3) 映画館以外で行われる上映活動(主要な自主上映)一覧(約250件)

III 特別調査

以下のようなテーマを予定している。

- ・若年層の観客を育成するプログラムについて 映画祭/映画館/シネマテーク
- ・コロナ後のミニシアター・コミュニティシネマ
- ・映画館のサブスクリプションについて考える

IV 世界の映画上映事情 現地調査

IIIのテーマについて海外の事例を調査する。

資料

(1) 都道府県別(映画館/公共施設・シネマテーク/映画祭)詳細

各都道府県の全映画館リスト(約600館/3600スクリーン) 2014/2023

各都道府県の映画祭/シネマテーク・映画関連資料館/映画館以外で行われる上映活動(主要な自主上映)

地域別映画地図

(2) 全国コミュニティシネマ会議採録

(3) 上映に関わる用語集

2. 自主事業

[1] 「SAVE the CINEMA!」事業

(1) コミュニティシネマへの公的な支援システムの実現に向けた活動

コミュニティシネマ（ミニシアター、シネマテーク、自主上映等）の活動に対する支援を実現するための、映画振興を担う組織や支援のための組織、法律、制度等の確立を目指して、文化庁や他団体と連携を図り、必要な活動を行う。

※映画館定額制（映画館のサブスクリプション）の調査 ※ユース割の導入検討・・・など

(2) コミュニティシネマの活動情報ポータルサイト「アートハウス・プレス」の運営

日々全国各地で展開される多様な上映関連イベントや、映画祭、特集上映など特別な映画上映の情報を、網羅的に紹介するサイト「Arthouse Press（アートハウス・プレス）芸術電影館通信」を運営する

(3) コミュニティシネマセンター会員制度の充実、見直しなど

会員の増加をはかるとともに、新しい会員制度を検討する。

- ウェブサイトのリニューアル、会員制度の充実、見直しなど

コミュニティシネマセンターのウェブサイトやSNSを活用し、積極的に広報活動を行う。

- ミニシアター・ネットワーク会員相互割引サービスの実施

コミュニティシネマセンター加盟館をつなぐサービスとして各加盟館の会員証を提示することにより相互に鑑賞料金の割引を実施。⇒ユース割の導入など新しい展開を検討する。

- デジタルシステムの更新に関する情報提供・情報共有

[2] こどもと映画 プログラム

(1) 「こども映画館～スクリーンでみる日本アニメーション！」 国立映画アーカイブ共催事業

巡回予定…上田映劇、伊豆諸島シネマセンターほか

- 新しいプログラムの策定…「スクリーンでみる日本アニメーション！」に続くプログラムを検討する。

- ウェブサイト「こども映画館」の更新

(2) 映画教育プログラム（こどもと映画プログラム）担当者育成プログラム（カリキュラム）の構築

(3) 文化庁「文化芸術による子供育成推進事業 文化施設等活用事業」の実践に向けた準備

[3] 映画の巡回/特集上映会の開催

(1) 映画/批評月間《フランス映画の現在》vol.5 の巡回

日仏学院が、日本でなかなか見られないフランスの最新作や隠れた名作を紹介する特集「映画/批評月間～フランス映画の現在」。vol.5は、“スペシャル・エディション”として、90年代から現在までフランス映画を牽引してきたアルノー・デプレションの特集として、2023年9月にぴあフィルムフェスティバルとの共催で開催される。コミュニティシネマセンターでは、9月半ば以降、上映された作品の中から10作品程度を、大阪・京都を皮切りに全国に巡回する。また、2022年度に巡回したVol.4作品についても引き続き、上映会場を募集する。

※横浜シネマ・ジャック&ベティでの上映（11月下旬予定）はコミュニティシネマセンター共催で実施
巡回予定：大阪シネ・ヌーヴォ、京都出町座、京都みなみ会館、横浜シネマ・ジャック&ベティ、広島市映像文化ライブラリー、シネマテークたかさき 他

(2) ジョージア映画祭

ジョージア映画の歴史的傑作の数々を一堂に集め、デジタルリマスター版で一挙上映する「ジョージア [グルジア] 映画祭」。2022年版の巡回を継続するとともに、「ジョージア映画祭2024」の計画を立てる。

主催：ジョージア映画祭実行委員会 企画：はらだたけひで

共催：一般社団法人コミュニティシネマセンター

「ジョージア映画祭2022」巡回作品は2022年度事業報告参照

(3) 所蔵フィルムの上映、巡回、配給会社作品の上映協力など。

フレデリック・ワイズマン監督作品、英国ドキュメンタリー傑作選、その他、当センターが保有する作品の貸出を行う。